

校歌の風景



37

牛根小学校

(垂水市)

作詞・平山 正武
作曲・宇都宮寅太郎

一
朝の光の 清らかな
静かな海を 前にして
牛根の村の 中ほどに
誇りも高く 麗しく
小学校は そびえ立つ

二
山は緑に 若松の
伸びる姿を ともとして
暑さ寒さに 身を鍛え
学びの業に 親しみて
心を磨く 我らなり

三
進む世のため 村のため
親の学びし 後を継ぎ
我が尊さを 磨き出す
誓いも固く 明け暮れて
希望に燃えて 励みなん

灰にも負けぬ元気な子

ブリヤカンパチの養殖が盛んで、イルカが遊ぶ静かな海を 前にしてへ小学校はそびえ立つ。校舎は緑の山々に囲まれ、雄大な桜島を望む。

後に息を吹き返した。〈希望に燃えて 励みなん〉との思いがこもった校歌は53年に制定された。第18代校長の平山正武さんが作詞。数々の校歌を手掛け、当時高山高校にいた宇都宮寅太郎さんが作曲した。

(74)は「自分たちが小学生のころは児童が300人以上いたが、だんだんと減ってきた。中学校も閉校してしまっただけで振り返る。現在、児童は15人ながら、〈暑さ寒さに 身を鍛え、年間を通した体力作りを実践する。県教育委員会が推進する「体力アップ！チャレンジシカこしま」では学校賞、特別賞を5年連続で受賞した。6

1914(大正3)年、桜島は大正噴火で流れ出した溶岩により、垂水と地続きになった。小学校は火山灰が降り積もり一時閉校となったが、進む世のため 村のため 3年

かつてはへ牛根の村の 中ほどへ牛根中学校と同じ敷地にあったが、62年に小学校が移転。OBの森正勝さん

町と合併し、58年に垂水市となり市立校に。62年に現在地に学校移転した。児童数は59年の369人がピークだった。現在は15人で複式学級となっている。

一輪車で遊ぶ牛根小学校の子どもたち 〓垂水市二川



年の梶ヶ山愛莉さんは「一輪車が得意な学校で、元気な子が多い」と誇る。

〈親の学びし 後を継ぎ〉 頑張る子どもたちへ、第41代の有馬博志校長(57)は「郷土の良さを知り、夢や目標を持つて、これからの時代を生き抜くための力を付けて。自分の考えや思いをしっかりと伝えられる人に育ってほしい」と期待を寄せる。(永井貢士)

賞を5年連続で受賞した。6